

令和5年度 第4回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和6年1月31日(水) 10:00～11:35
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室(対面+オンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、小林朋道委員、田中洋介委員、若原道昭委員、
児嶋祥悟委員、林昭男委員、米田裕子委員、山田修平委員、澤志郎委員
[10名/10名]
山崎安造監事、北野彬子監事[2名/2名]
- 欠席者 なし

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 協議事項

(1) 令和6年度重点取組事項(案)について

事務局から令和6年度重点取組事項(案)について説明があり、意見をいただいた。これらの意見を踏まえて、令和6年度重点取組事項(案)を修正することとなった。

〈主な意見等〉

- ・ 成長実感を高める教育課程の検討とは、どういったことを検討しているのか。
→学生の中には、明確な目標を持っている学生と、「環境」というなかで、これからやりたいことを決めて行く学生がある。その中で2つの分野があり、1つは「専門性」もう1つは「社会の中で貢献できる汎用的人間性」。それに対して「こういうことが出来るようになる」という目標を掲げたい。そのために学生が「自分はどう考えているのか、成長しているのか」ということをアンケート等により自分で把握していく。そのためにそれぞれの目標が達成できるようなカリキュラムが大事。それにより学生が成長したと思えるような力を伸ばしていきたい。それを可視化していきたい。
- ・ 学生のポートフォリオによって振り返り成長を実感できる。それを活用することもあったと思う。ただ「教育課程の検討」とあるのが解り難い。
→毎日ただ書くだけでは、薄っぺらい内容になってしまう。それより〇〇の部分が勉強になったとか、△△のところで迷ったとか、苦しんだとか、そういったことがあった時に書いていくと、それが成長を見る上で数値には表せないところを見せてくれるんじゃないかと思う。学生にも聞いてみると評判がいい。そういった要素を取り込んだ物を検討している。
- ・ 「大学の魅力作り」とあるが入学した学生が成長を実感できて満足感を得て次の社会に出て、あそこはこうなんだよというのも非常に大事なことである。その前に、この大学を目指そうという人たちにとって魅力ある大学だということをイメージ出来ることはどう結びつくのか。これは両方別々な物なのか一緒の物なのか。これからこの大学を目指す人にとっての魅力作りとはどういったものなのかアバウトでもあれば教えて欲しい。
→大学が存続するうえで一番大事なこと。独自性を出すことを検討中である。それが魅力と在学生の満足感にどう繋がるのかということ、基本的には大学の理念である持続可能な社会の発展に貢献できる人材の育成、そこは失いたくないし基盤としたい。そのうえで、受験生が魅力だと感じ、在生も参加・体験し成長につながるようなものを検討中。その中の一つとして「長期間の地域活動」等を検討中。1.2年生を集めて学生にとっての魅力づくり委員

会などをして自由な意見を取り入れたい。そして教職員と学生で作っていききたい。

- ・ 入学したての 1.2 年生は、これから目指す子供たちの感覚を持っていると思うのでそうした学生たちも入れて検討し、あるいはそこからフィードバックして次の世代に戻していくなど、是非とも検討してほしい。
- ・ 学生の満足度は、保護者の満足度でもあると思う。学生の満足度は、大学生活をして自分の力が付いた、成長したと実感することと、それだけではなくその力を生かせるような就職なり進学なりの進路に進むことができたという出口も大事なことだと思う。そして社会からみると学生が力が付いたとかどうかは良く見えないけど、どんなところに就職しているかの出口は見える。出口の実績がその大学の社会的評価を得るとい言葉があるくらい就職は大事である。さらに頑張してほしい。
→どのようなところに就職したかというのは、学生はもとより、保護者にも教員にも。学生が進路を決める際、自身で決める場合もあるし、保護者がこっちへ行きなさいよというように、色々なケースがある。最近では、公認会計士の資格取得、水産庁、環境省の上級試験での合格。そういうところをゼミの先生のボランティア的などで行われているが、それを大学全体の組織の取組として「うちの大学はこんなことをやっているんだ」という姿にしてうまく広報して外部に対して発信していきたい。
- ・ 「地域ニーズに即し大学の強みを生かした…」とあるが地域ニーズに即したカリキュラムになるのかそのあたりが見えにくい。
- ・ 「未来に向けた大学経営」とあるが全教職員が立ち向かっていかななくてはならない。その部分がちょっと弱いのではないか。今後、県市の派遣に頼らないでプロパーの経営陣を育てていかないといけないのではないか。
- ・ 卒業生、同窓会の強化が記載されていない。大学を評価する物差しの一つは、卒業生が 10 年後に母校をどう思うかということ。そのためにどうすべきかを大事にしてほしい。卒業生は、大きな力になる。

2 審議事項

(1) 令和 6 年度当初予算の編成について (案)

事務局から令和 6 年度当初予算の編成について説明があり、意見をいただいた。

〈主な意見等〉

- ・ 第 3 期中期計画目標数値に自己財源 7 億円以上とあるが、これには基金の取り崩しが入るんですね。これを入れると毎年ダゴヘゴするのではないか。解り難いのではないか。基金の取り崩しは限定されているのか。
→目的積立金については、毎年度の利益を審議会に掛けて設置者に申請をして、認められると積立金に積んでいく。使える内容については、「教育研究の質の向上、並びに組織運営及び施設設備の改善」としている。必要によって取り崩して使っており、目的積立金が入るとダゴヘゴするが、ただ全国共通で自己財源として扱うようになっているのでやむをえない。

(2) 理事長の退職手当について

西山副理事長から理事長の退職手当について説明があり、提案のとおり承認された。

3 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学第 3 期中期計画(案)について

事務局から、公立鳥取環境大学第 3 期中期計画(案)について報告があった。

- ・ 数値目標の県内入学率 R6 年度 25%とあるが、4 年後の R10 年度の県内就職率は 29%とあ

るが、これは、入ってきた者よりも多く県内に就職するのだということですね。
→なかなかきれいにはいかないが努力していく。

(2) 令和5年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画

山崎監事から令和5年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画について報告があった。

(3) 近況報告

事務局から近況報告があった。

5 その他

6 閉会